

# 弦楽器シリーズに迫る!

## アウター 5枚合板+FEカーボン



- 打球感がいい
- 直線的なボールが出る
- 球離れが早い



### こんな人にオススメ

- 当てたり弾いたりして打つ人
- 回転よりもスピードを求める人
- スマッシュを多用する人

### 木造選手タイプ

- 球離れが早いため、コントロールが難しいので台上処理に不安がある
- ラリーや攻撃に自信があって、台上技術にこだわりのない人
- 下回転が切れていると負けてしまう

### 高見選手タイプ

- 球離れが速いため弾きやすい
- チキータなど台上処理はアウターがダントツでやりやすい
- 相手のボールを利用しやすく、カウンターがやりやすい

## インナー 5枚合板+FEカーボン



- 球持ちがいいため、回転をかけやすい
- ボールが弧線を描きやすい
- コントロールがしやすい



### こんな人にオススメ

- ドライブを多用する人
- 台上処理に不安がある人、もしくは得意でそこから優位な展開にしたい人
- パワーがなく、安定性を求める人

### 木造選手タイプ

- 球持ちがいいため、コントロールがしやすい
- 下回転が切れていてもしっかりと引っかかる
- チキータをはじめとする台上処理、カウンターはダントツでやりやすい

### 高見選手タイプ

- 台上処理は、球持ちがよすぎて引っかかってしまうためやりづらい
- バックであればカウンターなど安定してやりやすい

## ラケットのこだわり

### 木造選手のこだわり

一番は回転がしっかりかかるかどうか。いくら打ちやすくてボールが浅く入ってしまうと意味がないので、しっかり引っかかって深く入るかどうかにかかわります。次に強い回転に対応できるかどうか。ブロックが安定することも重要です。そしてグリップ。弾みや飛びはその次ですね。

### 高見選手のこだわり

グリップがフィットするかどうかが一番です。その次に引っかかるかどうか。グリップが合わないと全ての技術がやりづらくなりますが、合えばなんでもできると思います。ですから、選ぶときはたくさんのラケットを実際に握ってフィーリングを確かめます。



バイオリンの方が、打球感が心地よくて好きかな〜。タイプは断然インナー! コントロールがしやすい!

僕もバイオリンが好き。アウターが合うけど、ワガママを言っているなら、フォアがアウター、バックはインナーがいいかな!

# 木造選手&高見選手に聞いた!

## バイオリン&アコースティック インプレッション

バイオリンカーボンインナーが9月に発売され、バイオリンとアコースティックのシリーズにそれぞれ「5枚合板」、「カーボン(アウター)」、「インナー」の3種類のラケットがそろった。

自分に適したラケットを見つけるのはなかなか難しい。「木材」がいいのか…。はたまた弾みのいい「カーボン(アウター)」がいいのか。それでは飛びすぎるから「カーボンインナー」がいいのか…。そもそもどんな違いが…? 今回は、愛工大の大物ルーキーでニッタク契約の木造・高見選手に6種類のラケットを打ち比べてもらった。台上処理も攻撃も「引っかけて打つ」木造選手と、「当てて弾いて打つ」高見選手の感想は両極端。両選手のタイプを参考にラケットを選んでみよう!

※使用ラバー: ファスタークG-1特厚、キョウヒョウプロ3ターボオレンジ



協力 **木造勇人**(愛知工業大) 平成29年度インターハイ3冠 **高見真己**(愛知工業大) 平成29年度インターハイ団体・複2冠

## Violin

バイオリン

アコースティックよりも硬く、しなり・ねばりがあるため、独特な「しなり」と「打球感の心地よさ」を感じる

## Acoustic

アコースティック

しなりのあるバイオリンに比べるとそこまでしなりがない。戦型に関係なく使いやすいスタンダードなラケット



## 木材 5枚合板

- 安定感がある
- 下がって引っかけたり、下回転をドライブするときにパワーがないと落ちてしまうかも



### こんな人にオススメ

強く当てた時に重くていいボールが出るため、パワーがあって溜めてしっかり打つ人が使用すれば、かなりの威力を発揮する

### 「引っかける」木造選手タイプ



### 木造選手タイプ

- 台上処理は引っかかりやすく安定していてコントロールしやすい

### 「当てて弾く」高見選手タイプ



### 高見選手タイプ

- 球を持たない分、スマッシュがやりやすい